

用語定義

用語	説明
電文	個別の気象情報について、一通単位の電報的な情報を示す。
情報	個々の気象情報やその気象情報を構成する個々の要素など、内容そのものを示す。電文が一通単位の電報を示すのに対して、情報は一般的な概念として総称したものを示す。
現象	気象、地震・津波、火山などの諸現象を示す。
観測報	現象の観察・測定結果の情報を示す。
予報	観測の成果に基づく現象の予想結果の情報を示す。
警報	重大な災害が発生するおそれがある旨警告する予報を示す。
防災情報	本仕様では、警報等の各種情報についてとりまとめて呼ぶ。
気象庁独自の電文形式	気象庁では、これまで各種情報について、情報毎に特殊なフォーマットを採用しており、取り扱いに専用の機能が必要な従来の形式。
かな漢字形式	気象庁独自の電文形式の一つで、俗に言う全角文字を利用した電文、およびその形式を示す。
コード形式	気象庁独自の電文形式の一つで、ASCII文字によるコードの列記記法を利用した電文、およびその形式を示す。
XML形式	気象庁の新しい電文形式で、本仕様により定義しているXMLを利用した電文、およびその形式を示す。
A/N形式	気象庁独自の電文形式の一つで、ASCII文字による英文の電文、およびその形式を示す。
バイナリー形式	気象庁独自の電文形式の一つで、各種フォーマットによるバイナリー形式を利用した電文、およびその形式を示す。
半角カナ形式	気象庁独自の電文形式の一つで、ASCII文字と俗に言う半角カナ文字を利用した電文、およびその形式を示す。
平文	テキストで記述され、内容について直接機械が処理することを目的とせず、文章として人間が理解することを目的とする情報を示す。
情報種別	警報等の各種情報について、目的、業務等により分類した情報分類単位における名称を示す。 具体的には、「特殊気象報」「気象警報・注意報」「噴火警報・予報」等がある。表1.1を参考のこと。
キャメルケース記法 (Camel Case記法)	<解説>一般的には、単語はすべて小文字で指定し、複数単語が組み合わさっている場合は、先頭文字を大文字にする記法。
XML	本仕様ではWorld Wide Web Consortium(W3C)により策定されたExtensible Markup Language (XML) 1.0 を示す。
XMLスキーマ	本仕様ではW3C XML Schemaを指し示す。 <解説>一般的には、スキーマ言語とは文書構造を定義する言語を示す。XMLスキーマとは広義にはXMLの構造を示す各種言語を示し、狭義にはそのうちW3C XML Schemaを指し示す。
W3C XML Schema	本仕様ではWorld Wide Web Consortium(W3C)により策定された、XMLの文書構造を定義する言語を示す。
データタイプ	W3C XML Schemaにより定義されたデータタイプを示す。 <解説>一般的には、コンピュータにおいてデータの取り扱い方を決めた形式であり、整数値、文字列、日付表現などを定義している。
発表領域	警報等の各種情報について、情報種別に応じて個別に指示、設定されている、情報の対象・有効範囲となる領域を示す。

名前空間	本仕様ではW3Cにより策定されたXML名前空間を示す。 <解説>一般的には、名前の衝突を防ぐために名前の集合(空間)を分けることを示す。
名前空間URI	本仕様では名前空間の名前を割り当てたURI(Uniform Resource Identifier)を示す。 <解説>一般的に、XML名前空間の場合、名前空間の割り当ての定義は次の書式で表すことができる。 xmlns:jmx="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/" 上記における、「http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/」がこの場合の名前空間URIにあたる。なお、この名前空間URI自体はウェブページ等の位置と直接は関係ない。
名前空間接頭辞	本仕様ではXML名前空間の定義で、 xmlns:jmx="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/" と記述した場合の、「jmx」が名前空間接頭辞にあたる。 <解説>一般的に、接頭辞を用いて「<jmx:abc>」と表記することにより、「abc」という要素名が接頭辞である「jmx」に属するものとなり、この接頭辞が「http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/」の別名であることから、「abc」という要素名はこの名前空間URIに結びつくことを示す。
WMO	World Meteorological Organizationの略で世界気象機関を示す。国連の専門機関の一つであり、気象庁も参加している。
GTS配信	GTSはGlobal Telecommunication Systemの略で、WMOにおける国際的な気象情報の交換のための通信網を示し、気象庁でもRTH(Regional Telecommunication Hub)として、国際的にも重要な情報交換業務を行っている。本仕様におけるGTS配信とは、GTS上における情報交換のため、様々な規約に基づいて配信している方式を示す。
処理系	本仕様において、処理系とは各電文をユーザー利用のために行う様々な処理システム・プログラムを示す。
配信系	本仕様において、配信系とは各システムにおいて利用できるよう、データの交換を行うシステム・プログラムを示す。
人間可読的	情報について、専ら人間が読んで理解することを目的とするもの。反対に機械可読的とは、機械が読み込み、ユーザー利用のために処理することを平易とする目的のものを示す。
検証	本仕様において、XMLの検証とは各XMLのデータそのものが、そのXMLを定義しているXMLスキーマに適合しているかどうかを検証することを示す。バリデーションとも言う。
インスタンス	本仕様においては、XMLにおけるインスタンスを示し、個々の電文のXMLデータそのものを示す。 <解説>一般的に、インスタンスとは抽象的・設計的なオブジェクトの実体そのものを示す。本文書においては、XMLにおけるインスタンスを示し、個々のXMLデータそのものを示す。